

## 平成21年度 課所掌基本施策進行管理票

課名	農林水産部水産局漁港課	課長名	居城 伸治
----	-------------	-----	-------

## 1 課の使命・役割（最終目的/上位目的）

漁港は、漁業生産と水産物流通の基地であり、併せて漁村の諸活動の拠点です。

漁場でとれた魚介類は、漁港で陸揚げされ、全国各地に運ばれていきます。また、漁業関係者の多くは、漁港の近くにある漁村に居住しています。さらには、漁港・漁場・漁村は、このような漁業活動の基地としての役割のみならず、地域社会の核としての役割や余暇空間の提供など、地域の人々や全国の人々の生活に関わる多面的な機能を有しており、これらの機能をより有効に発揮する必要があります。

また、台風などによる災害の多発、大規模地震、津波の来襲が予測される中で漁業地域における就業者・来訪者の安全確保と水産物の安定的な供給を支える安全・安心な漁港・漁村の形成を図るなど、災害に強い漁港づくりを推進します。

## 2 施策の概要

施策名	漁港の整備推進	施策コード	4 - 0 6 1 3
アクションプランにおける位置付け			
上位政策計画等	あすの千葉を開く10のちから 千葉県水産業振興方針 漁港漁場整備計画	関係課名	水産課、漁業資源課、河川環境課、 消防地震防災課、河川整備課

## ( 施策展開の柱 )

番号	柱名
	生産性向上に向けた生産基盤整備・振興対策

3 施策展開

(単位：千円、人)

施策展開の柱		20年度当初予算	21年度当初予算		
		20年度決算	21年度決算		
柱名	生産性向上に向けた生産基盤整備・振興対策	金額 2,769,499	2,566,282		
概要	<目的> 漁業生産活動の拠点地としての漁港機能の継続的な発揮や新たなニーズを的確に把握した整備を進め、水産物の安定供給のほか、地域の活性化への貢献、高齢者・女性などの弱者が安全で円滑な漁業生産活動へ従事することへの対応や、いま以上の利便性の向上、船舶航行の安全確保を図ります。	2,653,269	3,347,474		
	<内容> 漁港整備にあたっては、早期に効果の発揮できる施設を優先するなど、重点的かつ効果的に整備を進めます。さらに、親水機能を有する防波堤を整備するなどして、地域活性化策の1つとして寄与することを図ります。また、浚渫土砂は侵食の顕著な九十九里浜地区等の養浜などに再利用するなどして環境への負荷の低減を図ります。	人員 10.8	10.8		
19年度事後評価等を踏まえた課題及び対応策	漁港整備事業計画に基づき、平成14年度から整備を進めていますが、まだ十分な達成状況(成果)ではありません。そのため、早期に効果の発揮できる施設(漁港)を優先するなど、重点的かつ効率的に事業の進捗を図ります。				
前年度(20年度)からの具体的変更点・改善点(特に予算上の大幅変更を伴うもの)					
検証指標・手段		現状(基準年)	目標(目標年)	達成状況(年月)	区分
上位	海面漁業・養殖業生産量(属人) *属人：漁業経営体の所在地における生産量	18.7万t (19年概数)	22.5万t (21年) 23万t (22年)	19.5万トン (20年) 21年の数値は23年4月に判明します。	-
中間	漁港漁場整備事業(県管理13漁港)の整備率	37.5% (19年度)	45% (21年度) 53% (23年度)	46% (21年度)	A
実施結果	成果に関する説明(指標に関する成果、その他)	<p>1 生産性向上に向けた生産基盤の整備 漁港は、水産物の安定供給及び背後の漁業集落を災害から守る働きをしております。整備にあたっては、近年、台風の大型化の影響などによる高波浪や異常潮位に対する岸壁の冠水などの対策や、更新時期を迎えている施設の延命化及び地震、津波等の災害時に物資の輸送等を担える岸壁の強化に取り組み、水産物の安定供給と地域の防災に成果をあげています。また、背後にある漁村と都市とを結ぶ交流の場を創出するなどの公益的な機能を発揮する漁港環境の整備については、釣りも可能な親水型防波堤の整備も実施しています。</p> <p>2 就労環境の改善 保田漁港において、高齢化した就労者等や小型漁船のための浮き棧橋整備を実施しました。これにより就労環境の改善が大幅に進むこととなります。</p> <p>3 整備率 防波堤、物揚場、岸壁、航路・泊地浚渫などを実施し、整備率は目標を達成しました。このうち、防波堤の整備では港内の静穏度を高めることで船舶の入出港の安全と荷揚げの効率化がされるほか、水揚が容易となることにより、鮮度の維持と量の確保が図られます。また、航路泊地の浚渫は、船舶の座礁を防止し安全性が確保されることで、水揚げ量の向上に寄与します。</p>			
	問題点・課題に関する説明(指標に関すること、その他)	現在、漁港整備を総合的、計画的に実施するため、漁港漁場整備長期計画に基づき鋭意推進中ですが、十分に事業効果が発揮できるよう、事業の的確な選択、事業費の集中化及び優先順位付けを行いながら、引き続き整備を推進していく必要があります。			

	特記事項 (事務事業の円滑化のために工夫した点、その他)	
22年度以降の対応	実施結果を踏まえた今後の具体的施策・事業展開	生産性向上に向けた生産基盤の整備 漁港・漁場・漁村の整備を総合的かつ計画的に実施するため、引き続き漁港整備事業の実施を推進します。整備にあたっては、水産物の鮮度保持や流通確保のため、特に流通拠点となる漁港における港内作業時の安全性確保や陸揚げ時間のロス解消にむけた整備を図ることとします。
	柱の方向性	事業量 A 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> B 維持 C 縮小 D 大幅に縮小
	改善事項	<input type="checkbox"/> 無 有(内容: )

#### 4 柱ごとの評価を踏まえた施策(課)全体としての達成状況と方向性

達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> A 施策目的の達成に向けて順調に進んでいる B 施策目的の達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある) C 施策目的の達成に向けて困難な課題がある
22年度以降特に重点的に取り組む施策展開と資源配分(予算・組織・人員)の方向性	漁港漁場整備長期計画では、流通拠点漁港として銚子漁港、飯岡漁港、片貝漁港、勝浦漁港、鴨川漁港及び富津漁港を定めています。今後この流通拠点漁港の整備を優先させるとともに、予算・人員面においても重点化を図ります。

#### 5 環境の視点に関する評価

事前評価	環境への配慮に関する視点	<柱 生産性向上に向けた生産基盤整備・振興対策> 漁港整備で発生した浚渫土砂は、侵食傾向が顕著な南九十九里地区等で養浜材料として活用し、自然環境の保全に配慮します。 また、工事で発生したコンクリート塊等は、資源循環型社会の構築の観点から、再利用を積極的に進めます。
	環境分野(大分類)	A 地球温暖化防止 <input checked="" type="checkbox"/> B 生物多様性保全・自然環境 <input checked="" type="checkbox"/> C 資源循環型社会の構築 D 大気環境 E 水環境 F 化学物質 G 人づくり・ネットワークづくり H 共通的・基盤的施策
事後評価	実施結果(環境の視点に関して工夫した点及びその成果)	片貝漁港及び太東漁港で発生した浚渫土砂は南九十九里地区の侵食の著しい箇所に養浜材として供給しました。
	実施結果を踏まえた今後の取組方針	漁港施設等の海上での工事にあたり、周辺海域の自然環境や水生生物の生息環境に配慮した施工を監理する適正な技術者を請負者が配置することにより、環境保全に配慮した円滑な施工を確保していきます。

#### (二次評価結果)

<p>地元関係者の意向、利用状況、緊急性などを十分考慮し、計画的かつ効率的に漁港の整備を進めること。 漁港の多面的機能を十分発揮できるよう、親水機能や大災害時の輸送拠点としての機能等の充実を図るとともに、適正な漁港の管理に勤めること。</p>
---